

1月26日(月)

逆 転 し た 世 界 観

聖書朗読 ルカの福音書 1:46~56

権力ある者を王位から引き降ろされます。低い者を高く引き上げ      ルカ 1：52

神様はこの世の価値観を覆されます。これこそマリヤの賛歌（マニフィカト）の中心です。彼女は『卑しいはしため』として、文化的には見過ごされる存在であったでしょう。（ルカ 1：48）しかし、力あるお方である神様が、彼女に目を留め、大きなことをしてくださったのです。（ルカ 1：49）

そして、マリヤになされたことを、神様は今もこの世において行っておられます。この世が『心の思いの高ぶっている者』、『権力のある者』そして『富む者』を持ち上げる一方で、神様は彼らを低くされます。謙虚で飢えた者は多くの場合忘れられる存在ですが、神様は彼らを高く引き上げ、満ち足らしてくださいます。(ルカ 1:51~53)

さて、マリヤはどう応答したでしょうか。彼女は純粋に神様を賛美しました。彼女は全身全霊で、救い主なる神様を喜びたたえました。彼女は、神様のあわれみ、正義、画期的な愛ゆえに、主をあがめました。神様の“逆転の王国”ゆえに、彼女は賛美したのです。

神様は今日も働いておられます。神様は低い者を高く上げ、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、飢えた者を良いもので満たして下さっています。神様は今もお、この世の価値観とは全く反対の価値観を示されています。

讃美歌 163 あまつみつかいよ

祈り 主よ、あなたは私の世界観を一変させていただきました。私が低くされていた時、あなたは私を引き上げてくださいました。私のうちにある全てをもって、あなたを賛美します。イエス様の御名によって。アーメン。

コネチカット州 ブリッジポート / クリス・オルトロック

[illegible]

# 今日の力

[illegible]

2026年1月26日～2月1日

翻訳 樋口 工三  
 岡元 裕子  
 編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています  
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

1月27日(火)

み こと ば を 実 践 す る

聖書朗読 ルカの福音書 6:46~49

なぜ、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。  
わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行う人たちがどんな人に似ている  
か、あなたがたに示しましょう。  
ルカ 6：46～47

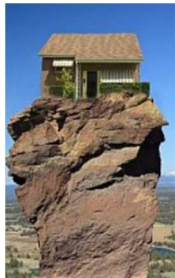
1978年8月のあの日、テキサス州オールバニーは蒸し暑くジメジメしていました。ユース・ミニスターとして奉仕していた私は、10代の若者たちのグループと一緒に、豪雨によってその町のほとんどが水浸しになってしまった瓦礫の撤去作業をしていました。ハバード川からの洪水到達点は41フィート（約12.5m）もの高さになりました。ちょうど3マイル（約4.8km）先の上流では、32.5インチ（約82.5cm）の降水量を記録したばかりでした。皮肉なことに、そのわずか1週間前には、オールバニーの住民たちは干ばつを憂い、雨が降るように祈っていました。

ルカ6章で、イエス様は洪水の話を用いて、人生においてどのように神様のみことばを聞く者が試されるかを説明しておられます。人生の嵐が襲う時、神様の教えに従う生き方をする者だけが、しっかりと立ち続けることができるのです。賛美したり、イエス様を「主よ」と呼んだりするだけでは十分ではありません。神様は、みことばを聞き、それを行う生き方をする者を求めておられるのです。

神様はあなたの人生に、その従順さを見出されるでしょうか。

聖 歌 295 成したまえなが旨

祈り 主よ、どうか私たちの唇の告白を聞くだけでなく、私たちの生き方の中に従順さを見てくださいように。あなたの御名によって祈ります。アーメン。



テキサス州 グランベリー / クリス・フリッツェル

1月28日(水)

夕食に私の家に来てください

聖書朗読 ルカの福音書 7：36～50

さて、あるパリサイ人が、いっしょに食事をしたい、とイエスを招いたので、そのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。 ルカ 7：36

我が家のダイニングルームにはテーブルと椅子があります。だから、食事をする際には椅子に座ってテーブルで食べるものだと思うのが当然です。それが私たちが普段していることです。もし私が部屋の真ん中で夕食を取り分け、あなたに床に横になるようお願いしたとしたら、きっと奇妙に感じることでしょう。

しかし、この聖書箇所をよく読んでみてください。“横になった”（食卓に着かれた）という言葉は、当時の習慣が私たちのとは異なることを示しています。そこにはテーブルや椅子はありません。お客様は、多くの場合裸足で、クッションの上に横になり、食事は彼らの前に置かれました。私たちの習慣が当然であると思い込んでしまうと、実際に起こったことの美しさや本来の微妙な意味合いを見逃してしまうことでしょう。

この話はまた、人々に対する私たちの思い込みに疑念を抱かせます。パリサイ人シモンは、その女性を罪人と見なし、気にかける価値も、恵みを受ける価値さえない者と判断しました。しかし、イエス様は彼女の心を見ておられたのです。彼女の無言の愛と悔改めの行いは、シモンの形式的なもてなしよりも雄弁でした。イエス様は、シモン自身の振る舞いによって、彼の心の状態を明らかにされたのです。

今日、私たちが周囲の人を思う時、どうか私たちの心が優しくなりますように。神様の目には一人一人全てが高価で尊い存在なのです。神様は謙虚に赦しを求める全ての人に十分に惜しみなく与えてくださいます。

讚美歌 521 イエスよ 心に宿りて

祈り 神様、あなたは私の心をご覧になり、私が人々に対してどのような思いを持ち、どのように振る舞っているか知っておられます。どうか私の心の思いがあなたの御前に受け入れられますように。イエス様の御名によって。アーメン。

ワシントン州　カークランド　／　ジョージ V・モーテンセン

1月29日（木）

多 少 傷 つ い て い て も

聖書朗読 ルカの福音書 8：27～39

主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、霊の砕かれた者を救われる。

詩篇 34：18

あなたは、今まで少し傷ついた経験はありますか。正直なところ、私たちは皆、傷ついた経験を持っていると思います。悪い選択、痛み、壊れた人間関係を通して、私たちは傷ついてしまいます。そして時に人々はその傷ゆえに、あの人はもうダメだと見放されてしまうときがあります。「どうせ大した人間にはなれないだろう」という言葉で、人を過小評価したり、見捨てたりしてしまうのです。

ルカ8章でイエス様は、めちゃくちゃに傷ついている男に出会います。彼は悪霊につかれていて、墓場に住んでいました。しかし、イエス様は顔をそむけず、その男を回復させ、尊厳、平安、生きる目的をお与えになりました。さらに、正式な訓練や弟子として長期間共に過ごすことなど一切せずに、彼に宣教の使命を与えられたのです。

それこそイエスさまの愛情です。イエス様は完全な人を探してはおられませんでした。心の打ち砕かれた者を探しておられたのです。イエス様は、どんなに傷がひどくても、全ての命に価値を見出されます。

では、あなたは誰の人生を見放そうとしていますか。友人ですか。同僚ですか。または、あなたご自身ですか。イエス様は、墓場のその男を見捨てませんでした。ましてや、あなたのことも、他の誰一人も見捨てることはありません。だから、私たちも同じことをしようではありませんか。傷ついた人を愛し、価値を見出し、回復へと導きましょう。

讃美歌第二編 167 われをもすくいし

祈 り 主よ、あなたがご覧になるように、どうか全ての人の魂の価値に目を留めることができるように助けてください。どんな人をも、特に酷く傷ついた人を決して見放すことがないように助けてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

テキサス州 アーヴィン / ブライアン ヒューメック

1月30日（金）

あなたも行って、同じようにしなさい

聖書朗読 ルカの福音書 10:25～37

世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。

I ヨハネ 3：17～18

酷寒の時季、当地の新聞にこのような見出しがありました。《良きサマリヤ人たちよ 悪天候襲来》小見出しには〈凍える寒さの時季、住民が助け合い〉とあります。

本日の聖書箇所にある、イエス様が語られたお話が今日でも認められているのは素晴らしいことではないですか。人々がイエス様の教えを実践しているなら、さらに素晴らしいことです。

イエス様のたとえ話には4種類の人たちが出てきます。皆、現代社会でも見かける人たちです。第一は、旅人を襲って半殺しにしたまま立ち去る暴漢。第二は、犠牲者。ルカがギリシャ語で書いた“傷”という語はトラウマ、心的深い外傷です。第三は、冷淡な人たち。祭司やレビ人は、来て彼を見ると、『反対側を通り過ぎて行った。』第四は、あわれみ深いサマリヤ人です。三人とも半殺し状態の旅人を見ましたが、かわいそうに思ったのは一人だけでした。旅人を助けるためにいろいろしたのは一人だけでした。

サマリヤ人は旅人を見るやすぐに思いやりを行動に移し、自分の時間、お金、彼自身を与えました。私たちへのメッセージは明らかです。『あなたも行って、同じようにしなさい。』

讃美歌第二編 169 み神のみまえに 喜びつどい

祈 り お父様、良きサマリヤ人のあわれみ深い行いのように、人々が困っているのを見るだけではなく、実際に手を差し伸べられるように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 コマース / デイビッド・ギブソン

1月31日（土）

マ リ ヤ の 信 仰、 マ ル タ の 奉 仕

聖書朗読 ルカの福音書 10：38～42

しかし、どうしても必要なことはわかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」 ルカ 10：42

マルタもマリヤも主に忠実にお仕えしましたが、そのお仕えの仕方が明らかに違っていました。イエス様は、ただ主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていたマリヤをおほめになりました。彼女は、主が予言されたとおりにエルサレムに上られる前のつかの間の時を逃したくなかったのです。マリヤは考える人で、マルタは行動する人でした。マリヤはどうあるべきかにフォーカスし、マルタは何をなすべきかにフォーカスしました。

奉仕するのは良いことですが、信仰を持つことの方がもっと良いです。“行い”はやりがいがありますが、キリストの弟子であることが一番大切です。今日の聖句は、“良いこと”対“悪いこと”についてではなく、“良いこと”対“もっと良いこと”についてなのです。

マルタは手を動かして心からのおもてなしをしました。マリヤは心を捧げて、主の足もとにすわって、イエス様がおっしゃった『良いほうを選びました。』結局、マリヤもマルタも、あなたも私も、物質的なパンだけでは生きてはいけないのです。（マタイ 4：4）どうしても必要なことは一つだけ、イエス様とともにいることです。

マリヤが選んだ“良いほう”は、立ち止まって、主とともにいて、みことばに聞き入ることでした。私たちの手を使ってイエス様にお仕えすることは良いことです。主の足もとにすわって、主に教わることはもっと良いことです。それこそ主がもっとも望まれることなのです。

讃美歌 339 君なるイエスよ けがれし我を

祈 り 主よ、あなた様に心と手両方でお仕えできるように、私たちに知恵と力をお与えください。まず心をお捧げし、手でお仕えます。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 ヴァレーホ / マーク R・ガイ

2月1日（日）

あ つ か ま し く 求 め な さ い

聖書朗読 ルカの福音書 11：5～13

あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。

ヤコブ 4：2c

スーパーのレジで子どもが「お菓子買って」とせがんでいるのを聞いたことがありますか。子どもは「お菓子ほしい。お菓子ほしい。」と言いつけ、25回目くらいには、店内にいる全員が心の中で「お母さん、頼むから買ってやって」という気持ちになります。

今日の箇所はしつこさの話です。ある人が真夜中に隣人を叩き起こし、パン三つ貸してくれと言います。家の中で隣人は「なんでほっておいてくれないんだろう」と思っています。でも、イエス様は『彼が友だちだからということで起きて何かを与えることはしないにしても、あくまで頼み続けるなら（あつかましさのゆえに）、そのためには起き上がって、必要な物を与えるでしょう。』とおっしゃいます。

“しつこさ”という語は“あつかましさ”とも訳せます。この話は無作法を奨励しているのではなく、大胆に確固とした信仰を持つようにということです。イエス様のお約束を信頼することです。『だれであっても、求める者は受け、捜すものは見つけ出し、たたく者には開かれます。』

天国に着いて、自分の名前が書かれている何千という贈り物を見つけるというおとぎ話を聞いたことがありますか。「これは何ですか」とあなたが尋ねると、神様はお答えになります。「あなたが求めさえすれば、与えようと思っていた贈り物の一部です。」

神様は非常にめぐみに富んでおられ、私たちが気付く以上に、私たちが祝福したいと思っていっぱいいます。ですから、謙遜と信仰をもって、求めましょう！

讃美歌 312 いつくしみ深き 友なるイエスは

祈 り 天のお父様、すべての良きものはあなたからの賜物です。私たちがあまり積極的に求めないことを赦し、あなたに大胆にしつこく信頼し続ける心をお与えください。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 ヴァレーホ / マーク R・ガイ